

有効成分青枯病菌感染性バクテリオファージ RKP181 を含有する申請農薬の使用方法及び
薬効・薬害試験結果概要

1. 青枯革命（青枯病菌感染性バクテリオファージ RKP181 液剤）

（1）使用方法

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	青枯病菌感染性バクテリ オファージ RKP181 を含 む農薬の総使用回数
トマト	青枯病	100 倍	—	定植 2 日前	—	5 分間 苗浸漬	—

（2）薬効

① トマト

薬効・薬害試験の結果、青枯病に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1：青枯革命の薬効・薬害試験（トマト、青枯病）結果概要

作物名	実施 場所 実施 年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害 虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (10 ⁸ PFU/mL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	新潟 H30	青枯病	中	100 1.0	定植 2 日 前	5 分間 苗浸漬	無処理区と比較して効 果が認められたが、そ の程度は低かった。	薬害は認 められな かった。
トマト	高知 H30	青枯病	甚	100 1.0	定植 2 日 前	5 分間 苗浸漬	無処理区と比較して効 果が認められなかつ た。	薬害は認 められな かった。
トマト	山口 H30	青枯病	多	100 1.0	定植 2 日 前	5 分間 苗浸漬	無処理区と比較して効 果が認められたが、そ の程度は低かった。	薬害は認 められな かった。
トマト	新潟 R1	青枯病	多	100 1.0	定植 2 日 前	5 分間 苗浸漬	無処理区と比較して効 果が認められたが、そ の程度は低かった。	薬害は認 められな かった。
トマト	三重 R1	青枯病	多 (接種)	100 1.0	定植 2 日 前	5 分間 苗浸漬	無処理区と比較して効 果が認められなかつ た。	薬害は認 められな かった。
トマト	兵庫 R1	青枯病	多	100 1.0	定植 2 日 前	5 分間 苗浸漬	無処理区と比較して効 果が認められた。	薬害は認 められな かった。
トマト	高知 R1	青枯病	中 (接種)	100 1.0	定植 2 日 前	5 分間 苗浸漬	無処理区と比較して効 果が認められた。	薬害は認 められな かった。
トマト	山口 R1	青枯病	多	100 1.0	定植 2 日 前	5 分間 苗浸漬	無処理区と比較して十 分な効果が認められ た。	薬害は認 められな かった。

(3) 薬害

① 対象作物

表1に示した薬効・薬害試験において薬害は認められなかった。申請作物に対する薬害について問題ないことを確認した。